

## 2 食道と胃の疾患

### [食道の疾患 (図 9.3)]

#### ◆食道静脈瘤

肝硬変や慢性肝炎などで**門脈圧**が高くなると、心臓へ血液を還流させる側副血行路である下部食道の静脈が、“コブ状”に拡張し食道粘膜に静脈瘤を形成する。破裂すると大量出血を起こす。肝硬変の死因の1つである。

#### ◆食道がん

ほとんどが**扁平上皮がん**で、中下部食道に好発する。進行がんでは、気管や動脈へ浸潤し、予後が悪い。高齢男性に多く、熱い飲食物やアルコール度数の高いお酒、喫煙が危険因子である。

### [胃の疾患 (図 9.4)]

#### ◆慢性胃炎

大部分が**ヘリコバクター・ピロリ菌** (以下 H. ピロリ菌) の感染によって生じ、幽門部を中心に腸上皮化生をきたす萎縮性胃炎である。胃がんや胃 MALT リンパ腫の背景に多い胃炎である。その他に自己免疫性胃炎がある。

#### ◆潰瘍

消化管の**粘膜筋板より深い壁の欠損**のことで、粘膜上皮のみの欠損は**びらん**という (図 9.5)。好発部位は胃角と十二指腸球部で、あわせて**消化性潰瘍**と呼ぶ。病因因子は H. ピロリ菌、過酸症、鎮痛薬、喫煙、ストレスなど (図 9.6)。

合併症は出血、貧血、穿孔、幽門輪狭窄である。

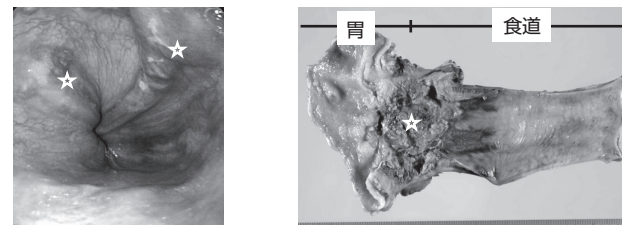
#### ◆ポリープ

**限局性隆起性病変**の肉眼分類の総称で、I～IV型に分類されている (図 9.5)。非腫瘍性の**過形成性ポリープ**から、腫瘍性の**腺腫**や**がん**まで、さまざまな病変を含む。

### ×モ ヘリコバクター・ピロリ菌 (ピロリ = 幽門)

1983年にオーストラリアの医師2人によって、胃潰瘍や慢性胃炎の原因菌として発見された。日本人の胃がん患者の大半で感染があり、その発生に関与しているとされ、除菌治療によって将来の罹患率低下が期待されている。

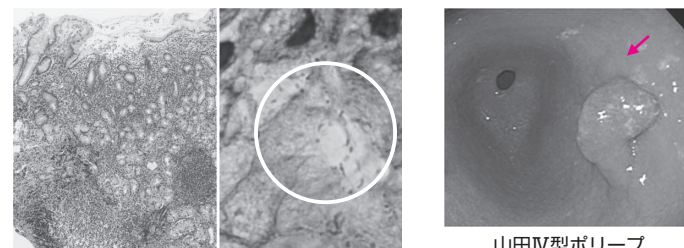
図 9.3 食道疾患の肉眼所見



食道静脈瘤☆(内視鏡写真)

食道がん☆(下部食道)

図 9.4 胃の疾患の肉眼所見と組織所見

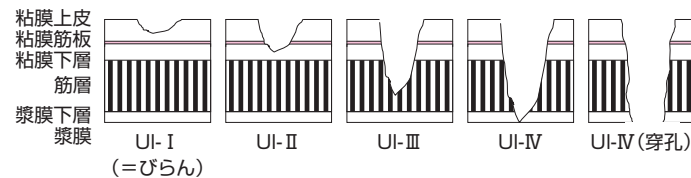


H. ピロリ菌 (○) による慢性胃炎

山田IV型ポリープ (過形成ポリープ)

図 9.5 胃潰瘍とポリープの分類

#### 【胃潰瘍の分類】



#### 【胃・大腸ポリープの肉眼分類 (山田の分類)】

